カゲキに出せた自分らしさ

志茂田景樹さん

31日フィナーレ 32年ありがとう いいとも！

―①―

1982年10月に放送スタートし、32年にわたって親しまれているフジテレビ系バラエティー番組「森田一義アワー　笑っていいとも！」が、31日の放送をもって幕を閉じる。放送回数は24日で8049回に達し、タモリ（68）は生放送単独司会の世界記録（5000回）を更新中だ。レギュラー出演者は約300人、関わったスタッフは延べ数千人。強烈なインパクトを残した出演者が、国民的番組を振り返る。

曲クイズ大ウケ

タレントだけでなく各界から個性派が出演して盛り上げた「いいとも」だが、過激な衣装で知られる直木賞作家・志茂田景樹さん（73）もその一人。自身が音楽をハミングして、曲名を当ててもらうクイズ「カゲキ（KAGEKI）に挑戦」では、極度の音痴が出演者をあぜんとさせ、その様子が大いにウケた。「小柳ルミ子さんがゲストの時、持ち歌の『お久しぶりね』を全く分かってくれなくて。（小柳の）勘が悪かったのかな」。音痴を自覚していない？志茂田さんだが、作家として築き上げたプライドは「関係ありません」と言い切る。

▲▲色紙に「いいとも」を一言で表す志茂田景樹さん。「気付かなかった自分を見つけることができた心の隠れ家」

▼▼出演時の92年11月、フジテレビ提供）志茂田さん

「アルタ」も区切り

○…「いいとも」を毎日収録していた東京・新宿東口の「スタジオアルタ」は、1980年にフジテレビなどが出資して開業。昼間は開業以来「日本全国昼休み」「笑ってる場合ですよ！」「いいとも」と同局の番組を中継してきた。一時期は夕方にテレビ東京系「レディス4」を放送したことも。現在もセットを頻繁に片付け別番組の収録や発表会、イベントなど貸しスペースとして利用。同社は「今後のことはお答えできません」としたが、いいとも終了後の新番組の収録はお台場へと移り、スタジオアルタも区切りを迎える。

◆志茂田　景樹（しもだ・かげき）1940年3月25日、静岡県伊東市生まれ。73歳。中大法学部卒。30歳ごろから執筆活動を始め、80年に「黄色い牙」で第83回直木賞を受賞。いいとも出演は92年10月から94年3月。

交友関係広がる

有名にはなったが、本業の本の売れ行きとは直結しなかった。しかし、交友関係は広がり、作品のヒントが増えた。「小説の登場人物に、共演した人のクセとか、一部を取り入れていたことはありましたね。本人は気がつかないでしょうけど」。タレント活動との相乗効果は計り知れない。

「いいとも」卒業後の98年秋、福岡でのサイン会で子供たちに取り囲まれた。「親が私を知っている世代だったんです。こんなに子供が来たならと、その場で2冊読み聞かせをしたら元気を与えたみたいで」。翌年から始めたイベント「よい子に読み聞かせ隊」は、昨年まで1600回に達し、参加者は32万人を超えた。執筆する機会は減ったが「当時の私を覚えていてくれて、オファーが来るわけですから」。いいともに感謝しながら、本に親しむ啓蒙（けいもう）活動を続ける。

「笑っていいともは、世相に合わせ変化したから長く続いたのでしょう。タモリさんの、出しゃばらずに全体を締める才能のおかげでもあります」

カゲキな服装もエネルギッシュな活動も、出演当時と少しも変わっていない。

（軍司　敦史）